

私を受け継ぐ家

■コンセプト

建物は、その土地に根ざした歴史、風土等を文脈として設計されつづけている。
しかしそこに一番重要視されるべきであろう、**人の生きてきた歴史**は住宅に反映されているだろうか。
過去の自分を文脈に取り込むことで、現在（0）ではなく過去（-1）から建築を立ち上げる。歴史が刻まれた家は**自分自身に根付き**、過去と現在のギャップの中で**新たな自分を探すことができる装置**になりえるのではないだろうか。

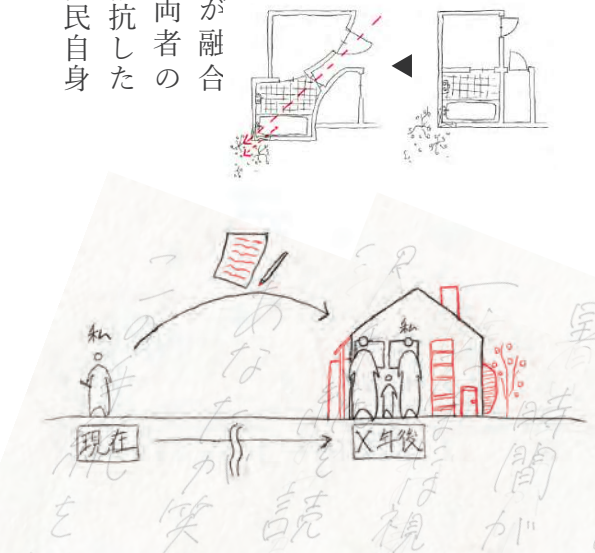
■未来の私への手紙

遠い未来への自分へ書く手紙には他人へ書く手紙とは別の意味を持つ。
他の人には言えないような、現在の不安、未来への不安、希望、期待、現状報告、好きなもの、嫌いなもの等が赤裸々に綴られる。

■設計手法

- ①現在の要望に沿って家を設計
- ②未来への手紙から過去の想いを抽出・翻訳し、現在の家に組み込む

現在の要望に、過去からの手紙が融合されることで文脈が変化する。両者の想いが掛け合わさるのではなく、拮抗した関係が空間に転換されることで、住民自身の歴史が受け継がれる家となる。

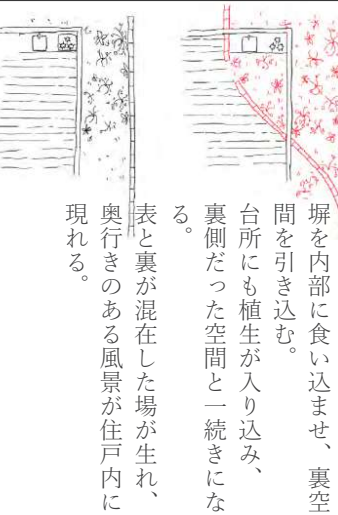


手紙に書いていたことを、実際に家の中で体験することが、未来の私への手紙の役割です。過去の自分を文脈に取り込むことで、現在（0）ではなく過去（-1）から建築を立ち上げる。歴史が刻まれた家は自分自身に根付き、過去と現在のギャップの中で新たな自分を探すことができる装置になりえるのではないだろうか。

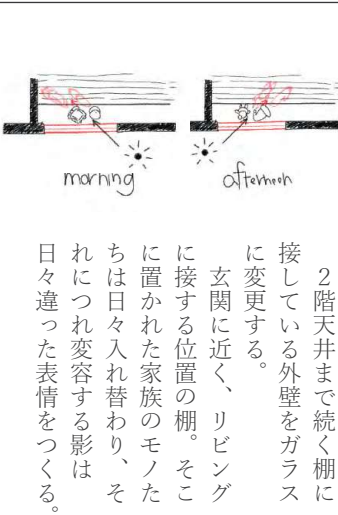
一 此細な季節の変化を知らせる



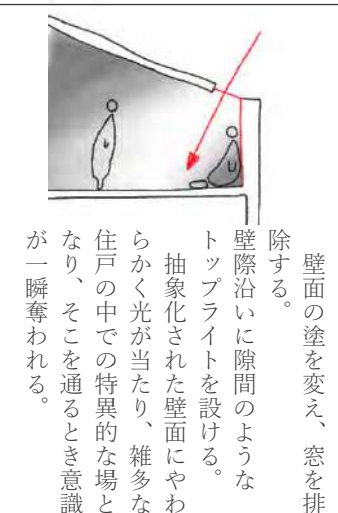
二 家の裏と表の一体化



三 変化する陰影が空間を彩る



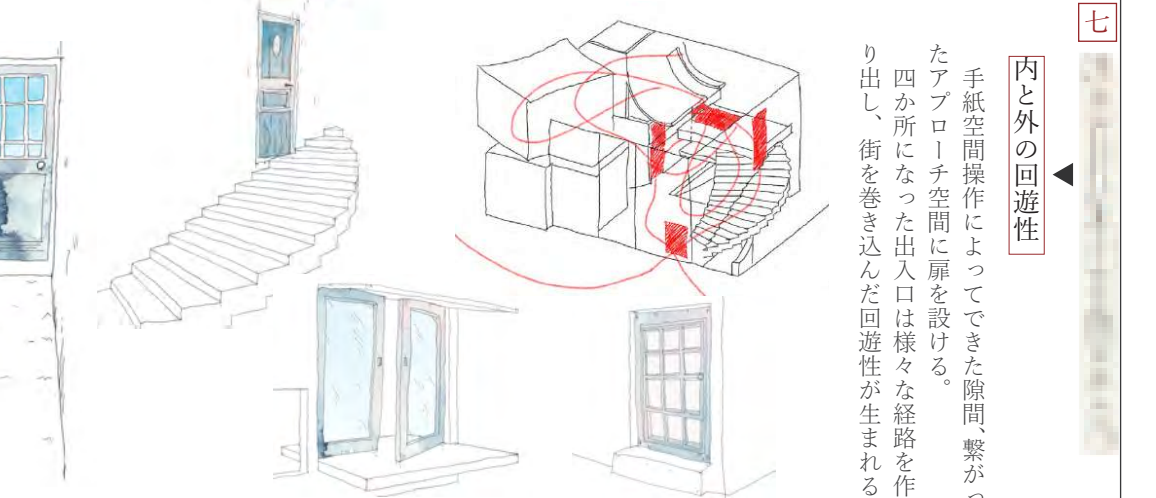
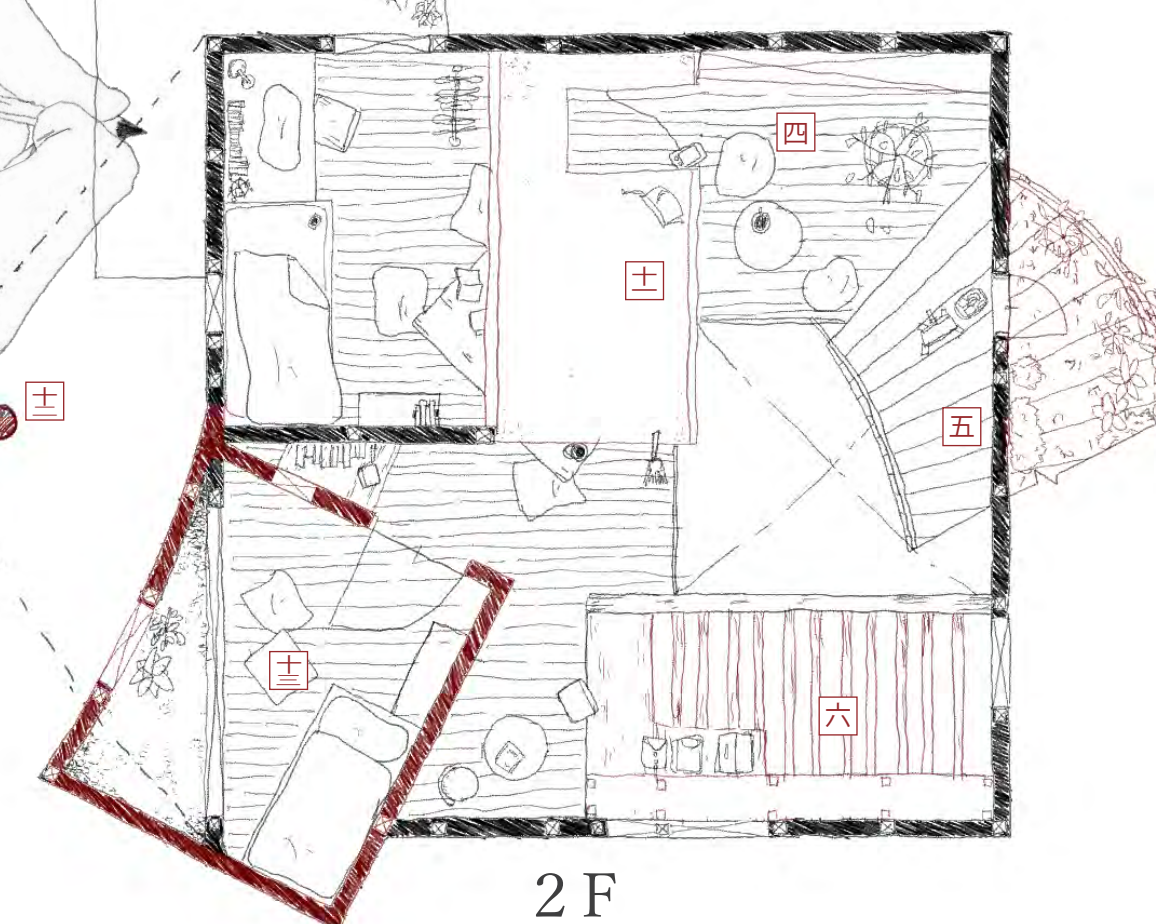
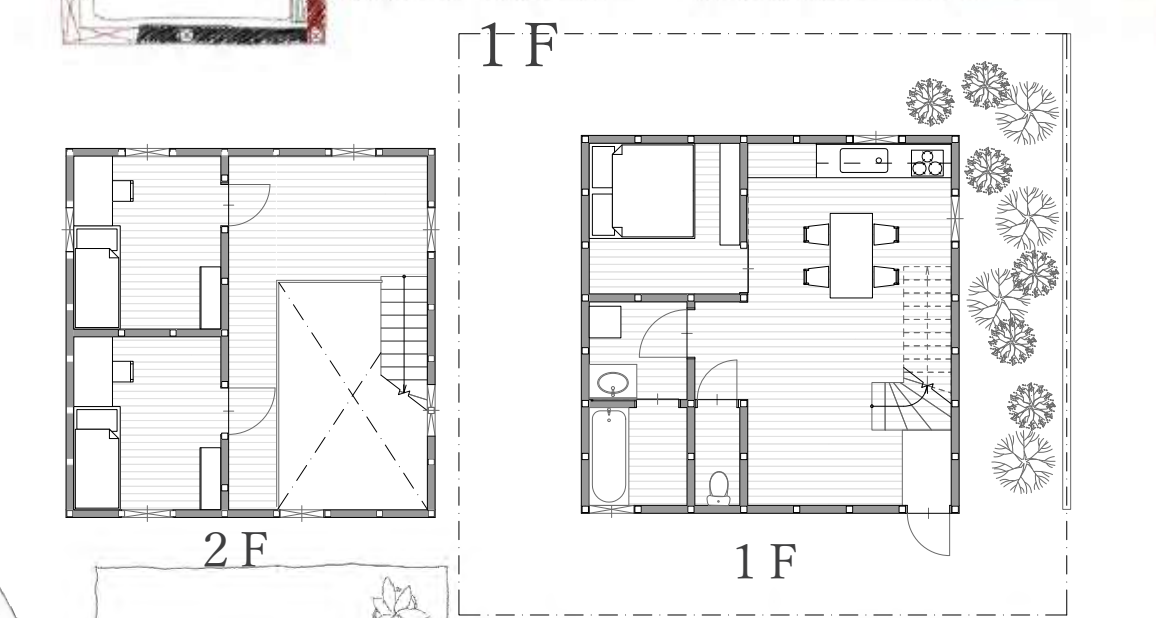
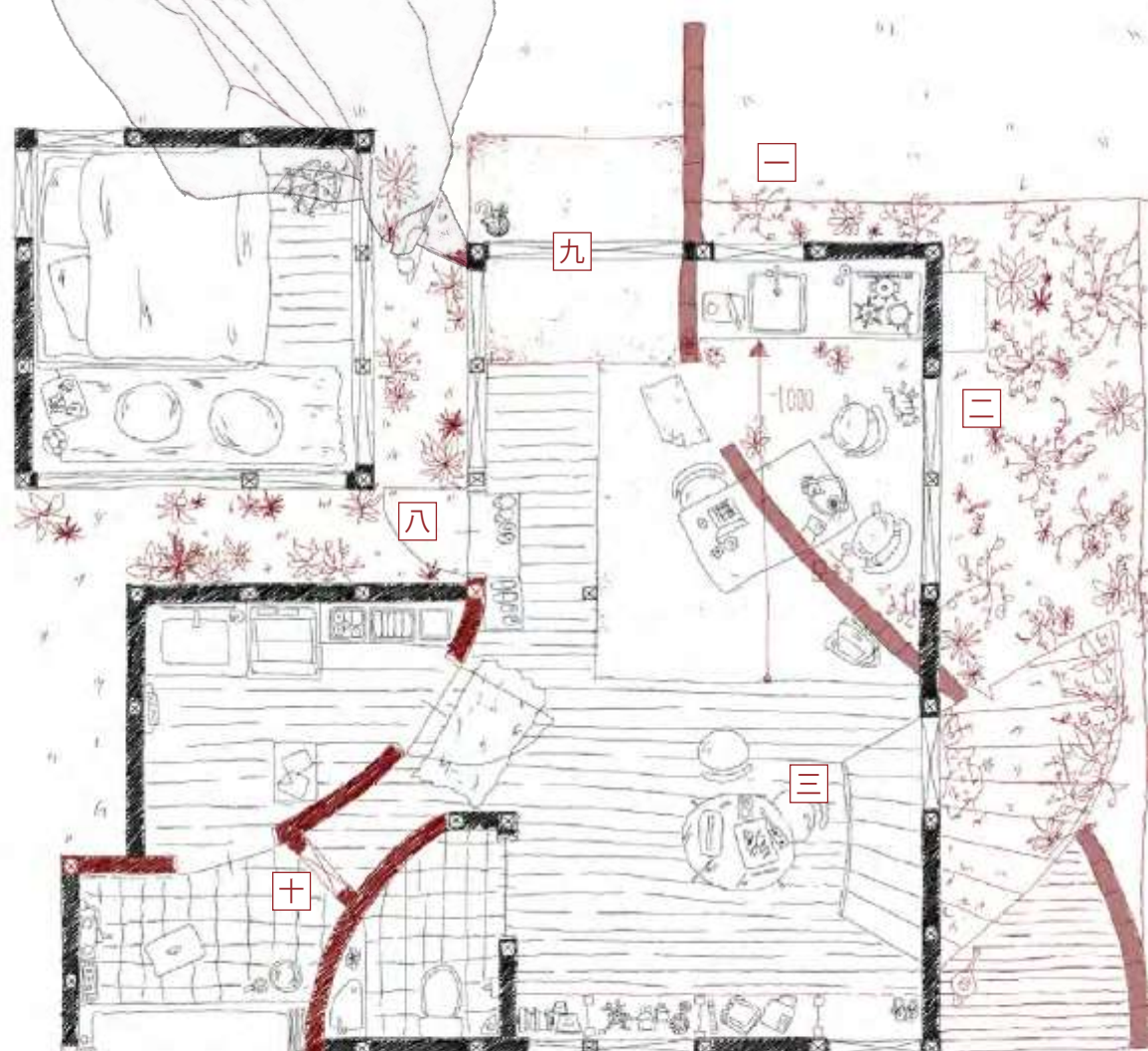
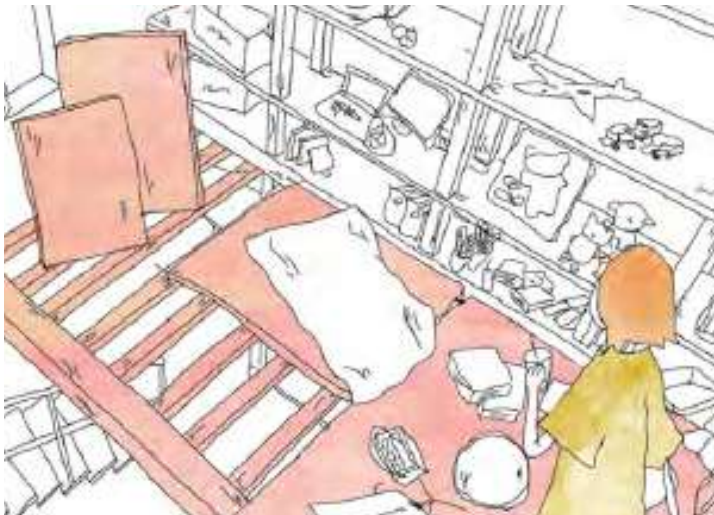
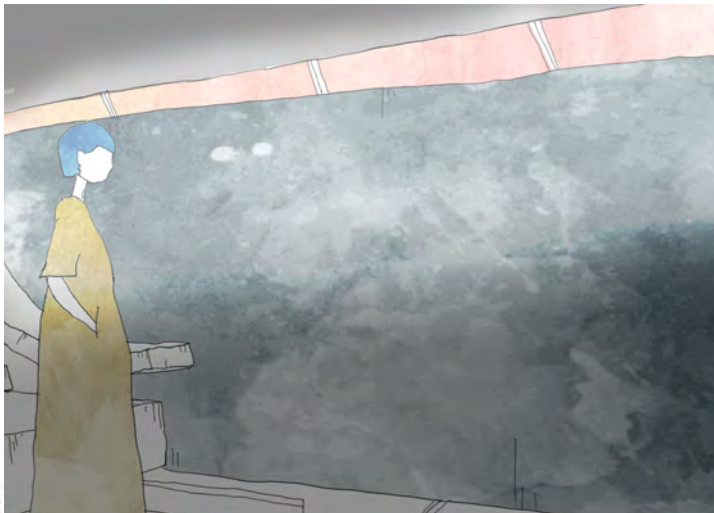
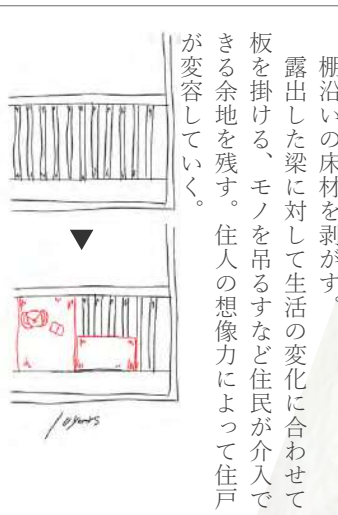
四 日常化した意識の切斷



五 様々な風景の重なり



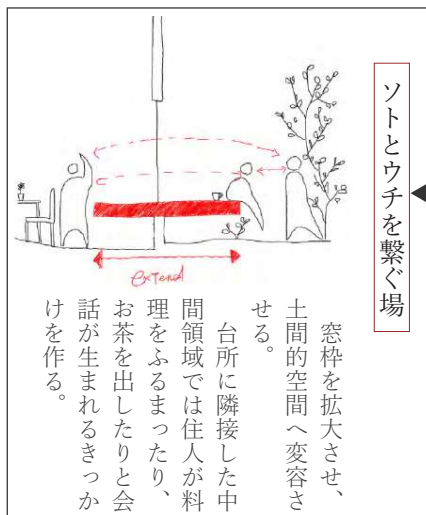
六 家族の歴史が反映される



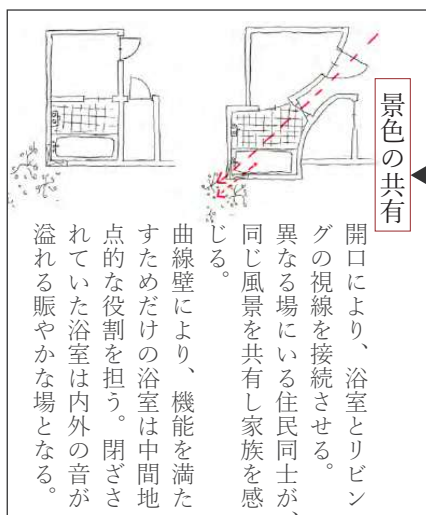
八 変化をうけながら生きていく



九 ソトとウチを繋ぐ場



十 景色の共有



十一 気配を感じる



十二 変化と不変の対比を映す



十三 気分が反映される場

